

令和元年度 第2回 木材需給会議 資料の概要 (案)

1. 一般経済の動向 (資料1)

2019年度の実質GDP成長率は、5年連続でプラスを達成すると予想、年度末にかけては、各国の経済対策効果やICT関連需要の持ち直しを受けて世界経済も徐々に持ち直し、輸出は緩やかに増加すると予想。

ただし、米中対立の激化により、両国経済の減速が世界経済に波及するリスクが以前にも増して高まっている。また、世界経済悪化を受けて、世界的な株安やリスク回避の円高が進む可能性もある。こうして輸出が悪化し、消費者マインドの悪化や将来不安の高まりなどから反動減以上に個人消費が落ち込めば、東京オリンピック・パラリンピックの開催前に景気後退に陥るリスクがある。

2020年度は、7～9月の東京オリンピック・パラリンピックに向けて個人消費、インバウンド需要が盛り上がることで一時的に景気は持ち直すと考えられるが、その反動やインフラ建設の需要の一巡、消費税対策効果の剥落などにより、年度後半に景気が停滞するリスクがある。実質GDP成長率も鈍化すると予想。2021年度は緩やかな回復基調に復帰することで、前年比+0.7%に高まる見込み。

2. 住宅着工見通し (資料2)

2019年1～7月の住宅着工戸数の累計は、前年同期比-0.8% (52.8万戸) と、前年より微減。

利用関係別では、持家住宅、分譲住宅一戸建及び分譲マンション (以下「持家系」という。) の着工戸数が、前年同期よりも増加、貸家は前年同期比-12.0%で、持家系の増加よりも貸家の減少の方が大きかった。

持家系の住宅着工戸数の増加は、国内景気が安定的に推移したこと、若年層を中心とした収入の増加及び住宅ローンの低金利の影響等が考えられる。

貸家の減少の要因としては、2015年1月からの相続税制改正に対する税制対策への需要が一巡したことや、貸家住宅の建設に対する金融機関の貸出姿勢の厳格化が続いていること等があげられる。

2019年4～6月期四半期GDP一次速報に基づく、シンクタンクの予測によれば、2019年度の住宅着工戸数は平均89.3万戸、2020年度は同87.0万戸が見込まれ、前回の予測 (2019年度91.2万戸、2020年度88.5万戸) よりも下方修正された。米中の経済摩擦が激化したこと等による世界経済の減速が、国内経済にも影響されることを反映しているとみられ、海外経済の動向が注目される。

3. 住宅業界の動向 (資料3)

住団連実施の住宅会社の「支店、営業所の営業責任者に対する住宅業況調査」の結果は、戸建注文住宅の平成31年4月～令和元年6月期の受注実績は、平成31年1～3月期に対し-33ポイント、金額でも-14ポイントと再度マイナスに転じ、同じく「低層住宅に関する経営者の景況感調査」でも、対前年比の総受注戸数は、-86ポイント、金額でも-75ポイントと大きくマイナスに転じた。

これに対しては、「戸建の集客減、賃貸住宅の駆け込み需要の反動減が棟数・金額ともに影響した。」「分譲住宅とリフォームが伸びているものの、戸建・賃貸が3月以降、共に対前年比マイナス。」などと、多くの企業で、コア事業である注文住宅の落込みにより受注は「10%程度・10%以上悪くなった」と回答。

住友林業の戸建住宅の受注も、棟数では対前年比ほぼ同等であるものの、金額ではマイナスとやや停滞がみられる。また、今後も消費税増税に加え、次世代住宅ポイントや住宅ローン控除拡充対象物件の受注期限も気になることとなり、受注環境は厳しい状況が続くものと推測される。

4. 木材業界の動向 (資料4)

5月は、大型連休の影響により流通部門、製造部門ともに仕入れ量、販売量が減少。6月は、流通部門では仕入れ量が増加、製造部門では販売量が増加。7月は、製造部門で仕入れ量が減少。

各3ヶ月後の相場予想に関しては、米材で主に弱含み。南洋材については、流通部門で5月にやや強含みであったが、以降保ち合いの予想。北洋材については、流通部門は5、6月は強含み予想も、7月は保ち合い、製造部門では弱含み予想が続いている。国産材については流通、製造両部門とも保ち合いが続いていて、建材の流通部門は6月、7月に保ち合いで推移すると予想している。

5. 木質バイオマスの動向 (資料5)

木質バイオマス発電所の燃料調達量は、平成30年度から横ばいの傾向となっている。昨年度大幅に伸びた「一般木質」のうち「海外チップ、ペレット」が減少している一方、「未利用木質」が増加基調のように見受けられるが、四半期ごとの増減は短期的な動きにとどまることもあるので考慮が必要。

燃料調達量における未利用木質と一般木質等の割合は、平成30年度は未利用木質が44%、一般木質等が52%だったが、令和元年度の4-6月期は未利用木質の割合が5割まで回復。一般木質等については、海外チップ・ペレットやPKS（パーム椰子殻）が相当程度を占める。

燃料材価格は、未利用木質の針葉樹チップ価格は上昇基調で推移しているのに対し、一般木質の針葉樹チップ価格は下落傾向にある。

資源エネルギー庁が公表した未利用木質バイオマス発電所のFIT認定容量と導入容量の推移をみると、認定を受けたもののうち容量ベースで74%相当が既に導入済。一般木質バイオマス発電所を含め、今後も稼働を開始する発電所が控えており、燃料材の需要は拡大していくものと想定される。

6. 木材輸出の動向 (資料6)

本年1月から7月までの輸出数量は、丸太は68万8千 m^3 で前年比1.2%の増、製材は8万9千 m^3 で5.8%の増、合板は7万1千 m^3 で1.2%の増となった。

輸出総額は208億円で、前年比3.2%の増となった。国別には、中国が6.2%増で98億円と輸出総額の47%を占める。第2位のフィリピンは7.3%増で46億円、第3位の韓国は7.6%減で18億円、第4位の米国は4%増で15億円となっている。

7. 紙パルプ産業の需給動向 (資料7)

紙・板紙について、国内出荷は紙の減少が継続、今期は板紙も天候不順の影響等から減少に転じた。輸出は紙、板紙共に減少となったが、特に板紙は中国向けが低迷し7年ぶりの減少となった。生産は板紙で辛うじてプラスを維持したが、紙ではマイナスが続いている。

パルプについて、生産は紙の生産減の影響を受け減少。

古紙について、輸出は中国の景気低迷とライセンス発給量の減少から大幅減となっている。

パルプ材集荷については、国産では針葉樹で天候不順や工場の設備トラブル等の需要減が影響し減少、広葉樹では針葉樹伐採へのシフトが要因となり減少が継続。輸入では針葉樹全体の需要減の中、国産材の優先集荷が影響し減少、広葉樹では比較的安価なベトナム材の集荷増が寄与し増加となっている。

8. 国産材に関する動向 (資料8)

8月上旬の森連共販所平均価格は、スギ柱用材が11,300円（前月比200円/ m^3 安）、同中目材は11,500円（前月同値）。ヒノキ柱用材が15,300円（前月比200円/ m^3 高）、同中目材は15,400円（前月比100円/ m^3 高）となった。

原木出材量は、4月から好調で推移してきたが、7月は減少。しかしながら、例年と比較するとスギ、ヒノキを合わせた数量は増えている。

原木の余剰感から買い急ぎは見られないが、径級により品薄高が見受けられるものもあった。一方、低質材は活発な動きを維持しており、全体として価格は横ばいの状態が継続。

製品市況については一服から弱気配が聞こえるものの、プレカット工場の生産は高い水準で維持。原木の相場は、これからの製品需要に不透明感が強いが、保合から強保合で推移する声が多い。

9. 国産材丸太（製材用）の需要動向 (資料10 - P1)

2019年第2四半期の実績は、6月までは大きな災害もなく、国産材の入荷は順調に推移。国産材製材の荷動きは、本年年初から大きな変動がみられず、プレカット工場の稼働も落ち着いた動きの中にある。

消費税見直しへの対応は、前回のよう大きな山があるわけではなく、年初からの緩やかな好調の継続ではないかとの見方。また、外材の価格が緩んできており、昨年のような形での製材品の国産材へのシフトは見られない状況。

第3四半期の見込みは、西日本の豪雨災害による影響は少なく、国産材の入荷がこのまま続けば、荷動きの大きな変動は期待できない。消費税見直しの最後の駆け込み需要として、大きな需要増は期待できないが、前年同期+ α の需要が継続すると期待される。

第4四半期の見通しは、原木の供給が減少する要因は少ないので供給に合せた需要の推移が想定され、前年同期とほぼ同様の需要を期待。

2020年第1四半期の見通しは、原木の供給が安定していれば、例年並みの需要は期待できるが、合板用、木質バイオマス利用等の需要との品質、価格面で競合する中での数字になり、前年同期とほぼ同様の需要を期待。

10. 国産材丸太（合板用）の需要動向（資料10 - P1）

2019年第2四半期の実績は、ほぼ堅調な住宅着工（特に構造用合板の需要増大）、輸入合板の急速な減少傾向、フロア台板等国産合板の需要増大、型枠用合板、中層大規模建築用の需要増大傾向、南洋材合板等に関する違法伐採等の環境問題、サバ州の丸太輸出禁止の継続、合板工場の設備投資（三重、大分、山梨工場等）による生産能力、効率アップ等により、前年同期比で増加となった。

第3四半期は、前期と同様の要因により、前年同期比で増加の見込み。

第4四半期以降においても、同様の要因に加え新設工場の本格稼働等により、前年同期比で増加の見通し。

11. 米材丸太の需要動向（資料10 - P2）

2019年第2四半期の実績は、昨年閉鎖した大型製材工場の需要量のうち、他の製材工場で補えない需要減を見込んでいたが、明らかな落ち込みは見られず、前年同期比で若干減にとどまった。

第3四半期は、供給量に見合った数量になると見込み、前期より数量が落ち込むと予測。前年同期比で若干減少の見込み。

第4四半期は、前期と同様の要因により、前期より更に数量が落ち込むと予測。前年同期比で減少の見通し。

2020年第1四半期は、年間需要約2,400千 m^3 に若干の季節要因を見込むが、前年同期比で減少の見通し。

12. 米材製材品の需要動向（資料10 - P2）

2019年第2四半期の実績は、10連休や働き方改革により工場の総合時間が減り、前年同期比で減少。また、米材価格高値のため嫌われ、他樹種へと変更されたことも影響。

第3四半期は、増税前の盛り上がり感や秋需の気配もなく、前年同期比で減少の見込み。

第4四半期は、増税後の落ち込みは見込まれない。パワービルダーは年間計画に基づき仕込みをしているので大きな変化はないが、職人不足により工事が進まず需要が伸びない。前年同期比で減少の見通し。

2020年第1四半期は、3月末の本決算に向けて大手は仕入調整に入るので需要は落ち込み、前年同期比で減少の見通し。

13. 北洋材丸太の需要動向（資料10 - P4）

2019年第2四半期の実績は、ロシアの丸太輸出関税の引上げにより入荷の大幅減予想の中、前年同期比で16%減の32千 m^3 と思いのほか減少幅が緩和された。

第3四半期は、輸出税問題に加えて季節的に入荷が減少する傾向があり、前年同期比で30%減の20千 m^3 の見込み。

第4四半期は、国内消費税引上げや米中貿易問題の影響から国内景気の悪化も予想されることから、前年同期比30%減の18千 m^3 の見通し。

2020年第1四半期は、大幅に需要が落ち込んだ2019年第1四半期並みの見通し。

14. ニュージーランド・チリ材 需要動向（資料10 - P5）

(1) ニュージーランド材丸太 需要について

2019年第2四半期の実績は、通常の下需要期に加え、米中貿易摩擦、日韓関係の悪化により需要後退

を予想していたが、堅調に推移した木製ケーブルドラムと内地物流需要が落ち込みをカバーし、前年同期比で増加。

第3四半期は、米中問題の影響で輸出梱包材は荷動きが停滞しており、内地挽き製材工場は20%の生産減。前年同期並みの見込み。

第4四半期は、輸出、国内共に高需要期に入る時期で、原木価格の下方修正も寄与し、前期比15%増と予想。懸念材料は米中貿易戦争の悪化による輸出減とそれに伴う梱包需要減、価格競争力のある国産杉製品のシェア増。前年同期並みの見通し。

2020年第1四半期は、3月末の決算を控えた最終需要家(大手企業)からの梱包・パレット需要が伸びる繁忙期のため第4四半期の需要が維持されると予測。前年同期比で増加の見通し。

(2) ニュージーランド・チリ材製材品 需要について

2019年第2四半期の実績は、4月までは需要が堅調に推移。NZ材の大半を占めるフリッチ(再割用大中角)については木製ケーブルドラム需要が安定していたため増加。チリ材は内地挽き製品との比較における価格優位性が需要増に寄与。前年同期比で大幅に増加となった。

第3四半期は、第2四半期の入荷量が激増したため、チリ材の在庫量は3ヵ月を超える高レベルとなっている。古在庫の廉価販売によりある程度の量は見込めるが、低需要期のため低調な推移と予想し、前年同期比で減少の見込み。

第4四半期は、輸出、国内共に高需要期に入る時期だが、在庫調整目的の入荷減により一部サイズで欠品も出る予想。大半は在庫販売となり、前年同期比で若干減少の見通し。懸念材料は米中貿易戦争の悪化による輸出減とそれに伴う梱包需要減。

2020年第1四半期は、3月末の決算を控えた最終需要家(大手企業)からの梱包・パレット需要が伸びる繁忙期。よって第4四半期の需要が維持されると予測するが、前年同期比では減少の見通し。

15. 米材、欧州材、北洋材、輸入集成材の供給動向

(1) 米材丸太の供給について (資料10 - P2)

2019年第2四半期の実績は、需給ともに安定しており、まとまった数量が入ったが前年同期比では微減。

第3四半期は、国内挽工場が8月に6船現地に入港させる等、それなりの数量が入荷する見込み。

第4四半期は、カナダにおける夏場の生産停止や合板メーカー向けの数量減の影響が出るが、前年同期と大きな差は無い見通し。

2020年第1四半期は、前期の入荷が若干減少し、その調整で多少は増えると思われるが、国産材の出材も現状好調なので、前年同期比で減少の見通し。

(2) 米材製材品供給について (資料10 - P2)

2019年第2四半期の実績は、消費増税に絡む需要動向の不透明感により、市場は当用買いに徹していた。第1、2四半期の入荷量は何れも前年同期比21.6%減。現地の2x4価格が下落し買い進めなかった状況。

第3四半期は、盆を挟み住宅着工は順調な事や需要期である事のほか、産地減産やストライキ等による供給不安も煽りある程度入荷は見込めるが、引続き不透明感より当用買いに徹し、470千 m^3 と前年同期比で減少の見込み。

第4四半期は、供給側沿岸のストライキや内陸減産のほか、2x4現地価格の低迷と消費増税見極め等による当用買いにより、前期より入荷減の見通し。国内の消費税増税影響等により前年同期比で入荷減と予測。

2020年第1四半期は、消費増税による落ち込みを考慮し、入荷は抑えられると予測し、本年第1四半期並かそれ以下の見通し。

(3) 欧州材製材品供給について (資料10 - P2)

2019年第2四半期の実績は、ラミナは低調で推移したが、完成品は順調で前年同期比2.3%増。

第3四半期は、引続きラミナは低調、完成品は順調で前年同期並みの見込み。

第4四半期は、ラミナが若干回復するが、完成品在庫が多くなり買い控えが起こるため前期より若干減少するも前年同期並みの見通し。

2020年第1四半期は、完成品在庫増、円高による市況下落懸念、消費増税による不透明感で買い控えが起こり、前年同期比で減少の見通し。

(4) 北洋材丸太供給について (資料10 - P4)

2019年第2四半期の実績は、製材、問屋向けに数量アップ。合板向けは多くない。

第3、4四半期は、関税アップの影響により前年同期比で減少の見込み、見通し。

2020年第1四半期も、関税アップにより前年同期比で減少の見通しで、シベリア材が激減する見通し。また、2020年1月より輸出税が60%となる。

(5) 北洋材製材品供給について (資料10 - P4)

2019年第1四半期は寒波の影響もあり供給減となったが、第2四半期の実績は前年同期並みとなった。

第3四半期は、端境期の影響はあるが、引続き底堅い需要もありそれなりの入荷量と予測し、前年同期並みまたは若干減少の見込み。

第4四半期は、良材が不足しているが、中国、中近東、北アフリカ等の市場が低迷しており、ある程度が入荷が予想される。前年同期は他の年の平均を上回っていたが、今期は平準化される見通し。

2020年第1四半期は、根強い需要及び対日価格が比較的良好な事より安定した入荷量と予測。引続き堅調な需要が継続すると予測し、前年同期並みの見通し。

(6) 輸入構造用集成材供給について (資料10 - P7)

2019年第2四半期の実績は、第1四半期の需要が良くなく、消費増税懸念もあり買い控えとなり、前年同期比で減少となった。

第3四半期は、現地増産による供給圧力が強く前期並みの入荷となり、前年同期比で増加の見通し。

第4四半期は、円高と産地供給圧力による価格下落もあり、国内生産材に比べ輸入材の価格競争力が増加するが、消費増税による不透明感や夏休みの影響もあり入荷は伸びないと予測。前年同期比では、価格競争力の増加により若干増の見通し。

2020年第1四半期は、円高と供給圧力、消費増税の影響で入荷量が試される。前年同期比並みの見通し。

16. ニュージーランド・チリ材の供給動向 (資料10 - P5)

(1) ニュージーランド・チリ材丸太 供給について

2019年第2四半期の実績は、前期の入荷落ち込み分をカバーする数量が増え、前年同期比92%増となった。理由としては、昨年第1四半期の入荷増の反動で第2四半期の入荷量が少なかったため。

第3四半期は、四半期の需要量である90千 m^3 に見合う入荷で、前年同期比25%減の見込み。前年同期比では大幅減となるが、昨年第2四半期の入荷減の反動で前年同期が大幅入荷増だったため。

第4四半期は、年間需要を360千 m^3 と予想し、それに見合う数量90千 m^3 の見通し。前年同期比3.1%減。

2020年第1四半期は、2020年の年間需要を例年並みの360千 m^3 と予想し、その四半期平均の90千 m^3 と見通す。前年同期比5.9%増。

(2) ニュージーランド・チリ材製材品 供給について

2019年第2四半期の実績は、前年同期比30%増となった。配船集中のほか、中国マーケット不振で日本向け数量を増やしたいシッパー側の意向もある模様。

第3四半期は、昨年来の大量入荷で在庫過多となっており、マーケットは暴落。入荷は調整局面に入り、前年同期比で17%減少。

第4四半期は、前期入荷減のため在庫調整は改善、通常ペースの入荷量に戻るが梱包需要停滞もある予想。前年同期並みの見通し。

2020年第1四半期は、通常ペースの入荷となるが、2018年平均より9%程度減となる。前年同期比で減少。

17. 南洋材丸太（製材用）、南洋材製材品の需要動向（資料10 - P3）

(1) 南洋材丸太（製材用）の需要について

2019年第2四半期の実績は、輸出用の梱包関係の資材にブレーキがかかった状況で低調な実績となり、前年同期比で大幅減となった。

第3四半期は、7月出荷量が前年同期比44.3%と夏の暑い時期で現場での生産量も落ち、また輸出用材は引き続き低調。前年同期比で減少の見込み。

第4四半期は、PNG材の入荷は安定しているが、需要面では中国向けが低調で輸出関係も厳しいことから、前年同期比で減少の見通し。

2020年第1四半期は、底堅い需要はあるが、製品アイテムが少なく限定的な部分もあるため、前年同期比で減少の見通し。

米中貿易摩擦によるアジア圏での需要減少が大きいと思われる。

(2) 南洋材製材品の需要について

2019年第2四半期の実績は、住宅着工数が前年比マイナスで、荷動きは全般に低調な状況であり、前年同期比で大幅な減少となった。

第3四半期は、7月出荷量が前年同期比107%と学校、体育館の改修工事や首都圏における店舗内装工事の需要はあり、前年同期比若干増の見込み。

第4四半期は、消費増税前の仮需は少なく、例年通りの秋需は見込める。また、非住宅物件など首都圏を中心に需要はあり、前年同期比並みの見通し。

2020年第1四半期は、年末にかけての完工物件は多く、一定の需要はあると予想。前年同期比並の見通し。

2019年第4四半期と2020年第1四半期は、オリンピック前の非住宅、商業施設の需要があると予想される。

18. 南洋材丸太（合板用）の需要動向（資料10 - P3）

2019年第2四半期の実績は、針葉樹合板へのシフトの進行、産地価格の高止まり、産地のインド、中国市場等へのシフト、産地の違法伐採対策等環境問題の影響、サバ州の丸太輸出禁止の継続、パプアニューギニアからの丸太輸入の増加、インドネシア、サバ州からの単板輸入の増加、設備投資による国産材針葉樹合板の生産能力のアップにより、前年同期比で減少となった。

第3四半期は、前期要因が加速化し、特に、サバ州の丸太輸出禁止の影響により、前年同期比で減少の見込み。なお、パプアニューギニアからの丸太輸入は安定確保の見通し。

第4四半期は、前期と同様の要因。配船の影響により前年同期比では増加の見通し。

2019年第1四半期は、前期と同様の要因。前年同期比で減少の見通し。

19. 国産、輸入合板の需要動向（資料10 - P6）

(1) 国内製造合板の需要について

2019年第2四半期の実績は、大手プレカット工場や大手住宅メーカー、九州エリアの活発な需要に支えられ、生産量を上回る需要となり、前年同期比で増加となった。

第3四半期は、上半期に続き、大手プレカット工場中心の活発な需要は続き、前年同期比で増加の見込み。

第4四半期は、住宅着工の消費増税駆け込みのピークアウトや貸家の減少傾向は続くものの、木造住宅での厚手化、非住宅用途への採用の拡大、フロー台板などの産業用途の拡大の傾向は一層進展すると予想。前年同期比では減少する見通し。

2020年第1四半期は、基本は消費税後の反動を受けるが、使用部位、用途の拡大もあり一定の水準は確保。前年同期比では減少の見通し。

(2) 輸入合板の需要について

2019年第2四半期の実績は、建築用・産業用ともに用途の縮小傾向が続いている。4月の入港も予想より少なく、5月の大型連休後も傾向は変わらず、前年比で大幅な減少となった。

第3四半期は、ベトナムからの梱包用合板は、中国向け輸出の停滞見通しから減少したままの状態が継続。建築用途では持家・分譲戸建て中心の需要は続くが、賃貸は減少傾向。夏季休暇も減少要因。フロアベースや造作材料において、他材料への転換がいつそう進み減少傾向は続くと思われ、前年同期比で減少の見込み。

第4四半期は、供給の不安定性や価格の硬直性に嫌気をもたれている中、他材料への転換傾向が継続。消費税後の反動とともに大きなマイナス要因。前年同期比で減少の見通し。

2020年第1四半期は、需要側は納期の安定性・信頼性を必要としており、川下における他材料転換の行動は一層進むと予想。前年同期比で減少の見通し。

20. 南洋材、輸入合板の供給動向

(1) 南洋材丸太の供給について (資料10 - P3)

2019年第2四半期の実績は、パプアニューギニア、サラワクからほぼ需要に見合う入荷があり、前年同期比で若干増加した。

第3四半期は、前期同様パプアニューギニア、サラワクからの入荷で、前年同期比で若干増加の見込み。

第4四半期は、サラワクが雨期入りする12-3月の出財源を見込んで前倒しで配船が増える見通しだが、前年同期比では減少の見通し。

2020年第1四半期は、2020年の年間入荷見込量(132千m³)を四半期平均した数量が入荷する予想。前年同期比では減少の見通し。

(2) 南洋材製材品 供給について (資料10 - P3)

2019年第2四半期の実績は、価格高騰による需要減により前年度比で8%減少した。特にフリー板が減少している。

第3四半期は、第2四半期の入荷減の影響もあり、前年同期比で増加する見込み。

第4四半期は、第3四半期と同量の入荷。前年同期比では減少の見通し。

2020年第1四半期は、価格高騰による需要減で年々マーケットは縮小傾向にあり、今後の入荷減を避けられない状況にあると予想。前年同期比並の見通し。

(3) 輸入合板の供給について (資料10 - P6)

2019年第2四半期の実績は、ゴールデンウィーク及び6月末のG20を避ける配船が組まれたため大幅な入荷減となった。米中貿易摩擦の影響により輸出梱包用合板需要が低迷し、ベトナム合板も入荷が減少しており、前年同期比で20.8%の減少となった。

第3四半期は、12mm系合板市場の低迷によりマレーシア合板の入荷減が顕著。第2四半期同様ベトナム合板も入荷量低迷。前年同期比で10%減少の見込み。

第4四半期は、各社在庫調整が終了し入荷量は回復傾向だが、Sox規制対応のためバルク船の数が増えず昨年レベルまでは回復しない。前年度比13.2%減少の見通し。

2020年第1四半期は、需要回復傾向になると見込むが、正月、テト等の影響から入荷量の大幅改善は望めない。前年同期並の見通し。

21. 国内製造合板の供給について (資料10 - P6)

2019年第2四半期の実績は、ほぼ堅調な住宅着工、国内合板工場のフル稼働、輸入合板の減少傾向、産地の違法伐採対策等環境問題の影響、設備投資(三重工場等)による国産材合板の生産能力、効率のアップ

ブ等により、前年同期並となった。

第3四半期は、前期要因に加え、型枠用合板の需要の漸増、大分、山梨の新設工場の稼働開始により、前年同期比で増加の見込み。

第4四半期は、前期と同様の要因により、前年同期比で増加の見通し。

2020年第1四半期は、前期要因に加え、新設工場の本格稼働により、前年同期比で増加の見通し。

22. 集成材に関する動向及び国内製造構造用集成材の供給動向（資料10-P7）

2019年第2四半期の実績は、前年同期比で10千 m^3 増加した。消費税増税前の駆け込み需要による増加と考えられる。

第3四半期は、第2四半期同様駆け込み需要による増加のため前年同期比で45千 m^3 増加の見込み。

第4四半期は、消費税増税の反動による需要減、世界貿易の不透明さなど経済動向の停滞を見込み前年同期比で減少の見通し。

2020年第1四半期は、前期の要因に加え、稼働日数の減等により前年同期比で減少の見通し。